

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970800678		
法人名	社会福祉法人 くすの木会		
事業所名	グループホーム いずみ		
所在地	小山市大字高橋128-1		
自己評価作成日	平成24年1月9日	評価結果市町村受理日	平成24年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kicenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルワーク共同事務所内)		
訪問調査日	平成24年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所8年目を過ぎ、認知症の進行もありますが、家で過ごすと同じように職員が家族の役割を果たして日々生活しております。生活もマンネリ化しないように外出して多くの方々と触れ合いを持ち、社会の一員として生きていることを実感して頂いております。
年間を通して保育所の園児・先生と交流を持ち、パワーを頂いております。
くすの木会全体で合同レク・きぬカフェを通して、他のセクションとの交流ができ、また、好きなレクを年間通して実践でき、作品が上達して行くことが励みになっている人もいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○近隣には川が流れ、田園風景が広がっており、四季折々を感じられる静かな場所に位置している。
○利用者一人ひとりに合った支援が提供され、外出等の楽しみも多く、「最後まで人間らしく生きることを援助する」
ことを基本理念に、ISOの品質目標達成を目指しながら常にサービスの向上に努めている。
○最後の場所としてホームで看取りも行っており、一人ひとりに別れの言葉や記念のデータを贈る等している。
○職員は法人の全体研修や外部研修への参加等、勉強する機会も多く、モチベーションが高い。又、笑顔で明る

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	くすの木会の理念に基づき、最後まで「人間らしく生きる」を実践。 本年度ISOの品質目標の重点活動項目「責任ある社会人とは？」に沿って年間計画を立てて日々目標達成のため努力している。	玄関に掲示してある法人の基本理念「最後まで人間らしく」やホームの介護理念「入所者も職員も笑顔のある生活」を日々の実践に活かしている。会議では全員で基本理念を唱和している。又、ISOの品質目標を共有し、意識的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に対しては参加を心掛けて、交流を持つように努力している。地域の婦人会の人達から、年1回「おまんじゅう」の差し入れなどをして頂いている。お店なども利用する(床屋、魚屋、ふれあいの郷)	運動会や祭り等の地域行事、近隣の商店に積極的に足を運んで交流している。婦人会や保育所とも交流がある。法人の夕涼み会には多くの地域住民が訪れている。又、日常的にも散歩時に近隣の人と挨拶を交わし、顔見知りの関係である。	今後、更にホームの理解度、認知度を高め、地域の方々が気軽に足を運ぶホームとなる事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座の講習者となり、認知症をよりわかり易く説明し、理解して頂けるように努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回委員会を開催している。活動報告、行事の内容、顧客アンケートの内容、いづみだよりの構成などにも参加して頂いている。 市の方にも参加の働きかけをしているが、	参加の働きかけを積極的に行いながら、年6回開催している。参加者は本人、家族、民生委員、地域包括、自治会長等である。活動報告や発行物の構成の検討等を行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町づくり出前講座の認知症サポーター講座に関わり、グループホームの現状などを説明している。本年度、小山市でも認知症施策推進会議を開催を予定し情報の共有の場を目指している。	手続き上の関わりのみでなく、市の担当者からの相談に対応する事もある。管理者は町づくり講座の認知症サポーター講座に関わり、グループホームの取り組みや現状を伝えている。本年度には市で認知症施策推進会議開催を予定している。	市への働きかけを積極的に行っており、認知症施策推進会議開催を契機に情報を共有し、市との連携がより密になるよう期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	くすの木会全体で、「身体拘束は、しない」を目標としている。 玄関も自由に入出入りができるようになっている。 常に、さりげなく見守りを行っている。	法人全体で「身体拘束は、しない」という目標を掲げ、話し合いながら実践に繋げている。職員はさりげない見守り体制を徹底し、利用者一人ひとりの状況を把握しながら、安全面に配慮して自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スピーチロックに注意している。 話題が出た時には、その都度、皆で話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	玄関に置いてあるので、いつでも見れるようになっている。(パンフレット) 現に、入所者で「あすてらす」を利用している人がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に項目をひとつひとつ読み上げて、お互いに確認しています。 不明な所は納得して頂けるように説明します。 入所後も、その都度対応します。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回顧客満足アンケートを実施。その中から意見を参考にしてできることはすぐに実践しています。特養の玄関に意見箱設置 利用者の意見は、日々の援助の中で即実践	家族には家族会や面会等の機会の他、年1回顧客満足アンケートを実施している。利用者の意見や要望は日々の中で聴くよう努めている。それらの意見や要望に速やかに対応し、アンケート結果、課題等のまとめを家族、市にも報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り、GH会議、5分間ノート、日々の会話などから意見を聞いている。 力量評価(月間、年間)の中からも反映している。	管理者は申し送り、月1回のGH会議、5分間ノート、日々の会話等から職員に意見を聞いている。 一人ひとりが記入している力量評価(月間・年間)からも意見や提案を吸い上げ、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	私の目標を掲げて実施している。役割分担を行い責任を持って実行している。力量評価が、お給料、賞与の査定基準となっている。職員の入れ替えがないので働きやすい環境にあると思う。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量評価を通して、個々の評価を行っている。 その人にあった内外研修にも参加させている。 「倫理法人会」に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今年度小山市で情報の共有場を設定して下さった。 (2/15に開催)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時にも要望は聞く。 入所が決まった時に必ず面接を行い、お互いの希望を伺い、楽しく生活できるように努めている。 入所後も本人の気持ちを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当ケアマネ、家族より情報を聞いている。 今までの生活歴や他サービス時の状況などを伺う。本人の気持ちが一番大切なので入所初期には関わりを多く持つように皆で努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の気持ちに沿った支援を優先している。 最初は、遠慮がちになるので、なるべく気どらずありのままに生活して頂く。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人にできることは、無理のない程度に押し付けず、自らやろうと言う関わりを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	食事会(年4回)・担当者会議・奉仕作業・面会時などで日々の様子を伝え、家族・姉妹の力を借りながら、本人が寂しくない環境を作っていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族関係が疎遠にならないように、行事などには必ず参加して頂く。 お手紙を出し、更に電話で確認を取るなどして、ホームに来て頂けるように努力している。	家族会が年4回あり、行事等に参加していただけるよう、電話や手紙で働きかけている。 曾孫が来る利用者もおり、年賀状を出す等、家族や親戚とのつながりを大切にしている。 知人や友人の面会も自由である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲よしコンビができ、同じ話を繰り返しているが、それでコミュニケーションがとれ、楽しく生活できているので、大切に見守って行けるようにする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了した方はすべて亡くなっているが、その後も交流は続いている。運営推進委員も継続して行って頂いている。命日には、お花を贈ったり、墓参りに行ったり、お手紙などで連絡を取り合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「私の基本情報」を作成し、一人ひとりの思いなどを記入して、誰でも理解できるようにしている。	日々の関わりの中で、丁寧に一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努め、「私の基本情報」を見れば誰でも本人の事を理解できるようにしている。又、本人にとっての最善、最良を話し合いながら検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の協力で馴染みのものを持参して下さり、本人の生活環境は、整っていると思う。記録の中から一人ひとりの日々の生活の経過を追って状態を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランを通して一日の生活を支援している。 少人数のため状態の変化にはすぐに気付くし、職員人数も多いので配慮はできている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の望むことをプランに生かして、本人・家族・職員とともに話し合っ、楽しいと思える日々が送れるようにしている。	本人・家族と話し合い、主治医の指示等も踏まえながら、意向や提案を反映した介護計画を作成している。3ヶ月に1回モニタリングを行い、随時変化に応じて介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画記録に記入している。 5分間ミーティングにも、日々の様子が記録されているので、皆が共有できるようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症が進んでもGHでの生活が継続できるように、家族の希望を受け協力体制を取り一日でも長く生活できるように支援していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理容室に出かけ、エステ、散髪、パーマなどをかけて、おしゃれを楽しんでいます。保育所との交流を年間通して実施、子供達の明るい元気な姿にパワーを頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々に主治医がいるので、本人は安心して生活ができています。急変時などは、嘱託医の先生にも相談に乗って頂き、すぐに対応できているので安心している。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。嘱託医に往診時以外にも定期的に利用者の状況をFAXで報告しており、急変時等にも適切な医療を受けられる体制が整っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時・体調変化時は、特養の看護師がすぐに対応して頂けるし、相談にも乗って頂けるので職員も安心して日々の支援ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医・家族との連携を図り、認知症の進行を防ぐためにも早期退院をお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時にはどう希望するか、常に家族と話し合いをしている。本人・家族の思いをしっかりと受け止めて、ホームで主治医と相談して、支援を行っている。ホームで看取ることもある。(家族希望)	安心して納得した最後を迎えられるよう、本人や家族と常に話し合いながら意向を受け止め、主治医等と連携して支援している。家族の希望でホームで看取る事もある。利用者が亡くなった時には利用者、職員全員が参列し、別れのことはや想いの写真を映像化したデータを贈っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	くすの木会全体で急変時対応のマニュアルを作成し、対応している。防災訓練の時には、蘇生法の研修なども行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は、日中・夜間を想定して実施している。火災に対しては、非常食品を準備し、毎月チェックしている。地域の消防団には協力が得られるように連携体制を依頼している。	月1回、日中・夜間を想定して避難訓練を行っている。年2回は消防署の立会いの下、訓練している。法人全体で協力体制が整えられ、地域の消防団にも協力を依頼している。非常食は3日分準備しており、チェック表を用いて管理も徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個室のためプライバシーが守られている。入浴も1対1の入浴にしている。解りやすい言葉かけをしている。(方言)本人の嫌がることは話題にせず、関わらないようにしている。	個室での過ごし方や入浴時の1対1の対応等、職員は適度な距離を保ちながら利用者一人ひとりの時間を大切にして支援している。又、本人の人格を尊重し、さりげない声掛けや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの能力に合わせて援助し、自らの決定で行動できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた援助を優先し、押し付けた言葉がけをせずに自分らしい生活を送って頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理容室にでかけ、パーマ、髪染め、カット、エステなどを楽しんでいる。洋服も季節に合わせて明るい色や好みの色のものを着ている。本人と一緒に掛けて自分の好みのものを選んで購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	予定1週間メニューは作成するが、その日の天気に合わせて変更する時もある。又、利用者の食べたいものに対応する。簡単な下ごしらえは手伝って頂く。下膳はできる人にはやって頂く。	旬なものを取り入れ、利用者と一緒にメニューを考えている。夏には畑で収穫した野菜も使用している。外食や季節のイベントに合わせた食事もしている。利用者も職員も一緒に食事をし、ホームでは音楽を流して穏やかな時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は、本人の意思を重視。好き嫌いは、代替を用意する。水分は、1日1500CCを目安に摂取して頂くようにする。なるべく自力摂取を心掛けているが、全介助の時もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる人は、声かけをして毎食後行う。 介助が必要な人は、職員が毎食後行う。 歯科受診は、その都度対応。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で管理している。 全員トイレで排泄を行っている。(夜間も)布パンツ+パットの排泄ケアを実践して行きたい。	トイレでの排泄を大切にしながら、排泄チェック表を使用して職員全員が利用者一人ひとりのサインを把握し、本人の生活リズムに沿った見守りや誘導等の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事摂取を優先している。 便秘の人に対しては、牛乳・植物繊維などを多く取るようにし、下剤の使用はなるべくしないように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	3回/週の入浴を実施。(基本) 拒否・体調不全の際は、無理せず本人に合わせて行う。 本人の希望で毎日入浴している人もいる。	基本として週3回、15時から18時に入浴している。1対1の対応をしており、拒否があったり、体調不良の際には本人に負担がかからないように支援している。又、本人の希望に臨機応変に対応し、入浴したい日、時間に合わせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日午睡を実施(1時間程度) 就寝時間もその人に合わせて行う。 暖かい日には布団を干して、気持ちよく安眠して頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	先生から頂くお薬情報を管理して、一人ひとりの服用を管理している。食後に一人ひとりに渡し、服用したかどうか確認している。 一人で服用できない人は介助で行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	運動レク・散歩など、本人が喜ぶことを一緒に楽しむ。 ゲームセンターに行ってゲームを楽しむ。 新聞・雑誌・小説なども良く読んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、ホームの周りを散歩する。 (その人に合わせた方法、距離)食材・おやつなども一緒に買い出しに行く。利用者の行きたい所、職員がこんな所だったら喜ぶだろうと言う所を年間計画に入れて実践している。	日常的に車や車椅子等を利用し、買い物や散歩、外食に出掛けている。又、弁当を持って出掛ける事もあり、季節を感じる機会となっている。年間計画に利用者の希望を盛り込み、職員も一緒に楽しみながら遠出も含め、積極的に外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時などは、おこづかいを本人に渡し、自分の好みのものを購入し、自らお金を払うように支援している。 自分でお財布を持っている人もいる。 預り金は、出納簿で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や本人が希望する時に対応。 本人からの要望がある時には、電話を掛ける時もある。手紙はくるが、本人が返事を書くことはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には陽差しが入り、暖かい。居室も季節に合わせて模様替えを行っている。 植木鉢も多く置き、四季折々を感じる工夫をしている。食事の時はCDを流し、楽しい雰囲気の中で食事をしている。 お部屋には、自分の作品なども飾っている	全体的に広く、明るく落ちついた空間が広がっている。植物等を多く取り入れ、季節を感じる工夫がされている。共有スペースには利用者と職員と一緒に作成したちぎり絵等が飾られている。各居室にもそれぞれの作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・マッサージ機などを置き、目隠しになる部分があり、一人ひとりが思い思いの場所で過ごし、気の合った仲間と話をし、ゆったりと過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた家具などを持ってきて頂き、安心して生活できるようにしている。 各部屋に好みの椅子を置いて、面会時など、ゆっくり話ができるようにし、家族の方も工夫してくださっている。	家族に協力をお願いし、今まで使用していた家具が持ち込まれ、馴染みの物での環境づくりが行われている。温かい雰囲気、一人ひとりが居心地良く暮らせるように配慮されている。食事の際には茶碗や箸等も個人の物を使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各自の壁紙は別にし、視覚で自分の部屋が認識できるようにしている。ベランダも長く自由に散歩できるようになっている。ホーム全体がバリアフリーになっているので、利用者は躓くこともなく生活ができている。		